

素敵な人生 素敵なパートナー



合志市男女共同参画
推進懇話会委員
下條 寛二

今回、わたしの身近な家庭や仕事関係から、男女共同参画について考えてみました。

わが家は結婚以来、妻はずっと専業主婦で家庭を守ってくれています。子どもの世話から家事まで、一手に彼女がしてくれました。子どものしつけや教育は一緒に考え悩みましたし、忙しい中にも一緒に話し合い

互いの役割を認め合い支え合ってきたから今日まで来ることができました。特に子育てについては「親の役割の大事さ」を認識していたので、どんなに忙しくても係わり続けてきました。わたしが子育てから逃げていたなら今日の子どもたちとの関係や家族はなかったと思っています。また、彼女はいつも超ハードな仕事をしているわたしの体調にも気を配り、家でゆっくり出来る空間を創ってくれ、元気で仕事できるのも彼女のおかげだと本当に感謝しています。わたしは、社会で仕事することも大事だけれど、将来の日本の基礎となる子どもを育てることも本当に重要な役割だ

と思っています。どんなスタイルが正しいかはなく、どういうスタイルで係わっていくかを話し合い、それぞれに合ったやり方を決めて、互いを認め合い尊敬できることではないかと思います。

現在、女性が社会で果たす役割は大きく、仕事上も欠かせないパートナーとなっています。わたしの会社や老人施設も女性のおかげで成り立っています。仕事では、男も女も関係ありません。それぞれが自分の部署をプロとして責任を持って頑張ってくれています。だからこそ、男女の差なく快適な職場環境づくりに努めています。女性職員が出産をしても職場復帰は当たり前ですし、復帰した場合も自分の生活スタイルにあった時間やポジションを自由に選べるようにしています。男女が子育てしやすい環境をつくることは会社の社会的役割だと思います。

男女の差別をすることや社会での役割を否定的に捉えることは、現在考えられないと思っています。ただ、性差を認めることも大事であり、その特性を互いが認識し理解し合うこと、尊重し合うことが真の男女共同参画社会へと繋がるとともに日本の豊かな将来へと繋がるものと思っています。



Daniel Baker
(ダニエル・ベイカー)
出身地：カナダ ウィニペグ

合志の皆さん、
さようなら。
お元気で。

ちょっと CHAT time

I am very sad to say this, but this will be my last article. By the time you read this, I will have been home for almost a month. It is hard to believe that I have been here for a whole year. It was amazing for me to visit a new place and live there. There are many things about Canada that I missed, but there are just as many people, places and things that I am going to miss about Japan. First, I am going to miss my JTEs, who helped me so much. I am also going to miss my students, who were always happy to see me. I will never forget any of you. I am also going to miss my Taiko teachers. Thank you for being so patient with me. I am going to miss the food, the nice people, and the beautiful places. Of course, there are many more things that I will miss, but too many for one small article.

After I go back to Canada, I will come back to Japan to study Japanese in Fukuoka. Once I have learned enough Japanese, I plan to study Japanese history at university. One day, I want to work for the Canadian Embassy. My time in Koshi has been a perfect introduction to Japan. I promise to visit Koshi again. Thank you all very much, and good luck.

大変残念ですが、今回が最後になります。皆さんがこれを読んでくださるころ、わたしは故郷に戻り、1カ月程すごしたところだと思います。合志での1年間はあっという間でした。初めての土地を訪れ、そこで暮らすことができたのは、わたしにとって大変素晴らしい体験でした。カナダを恋しく思ったこともありますが、これからは同じように日本を恋しく懐かしく思うことでしょう。まず第一に大変お世話になった英語科の先生方、そしていつもわたしに笑顔で接してくれた生徒たちのことを決して忘れません。それからわたしに辛抱強く教えてください。太鼓の先生方。もちろん他にもおいしい料理、親切な人々、美しい風景……とこの紙面ではとても語り尽くせません。本当にありがとうございました。

わたしはカナダに戻った後、再び日本（福岡）に来て、日本語の勉強を続けるつもりです。もっともっと日本語が上手になって、大学で日本の歴史を勉強したいです。そして将来、カナダ大使館で働けたらと思っています。合志で暮らせたことで日本がますます好きになり、日本のことをさらにくわしく知りたいと思うようになりました。きっと、またこの街を訪れます。本当にお世話になりました。皆さん、お元気で。

こうし 歴史発見!

第6回

須屋神社 三十六歌仙絵馬

(所蔵) 須屋神社
(保管・展示) 西合志郷土資料館



三十六歌仙とは、平安時代、歌人・歌学者であった藤原公任(966〜1041年)の『三十六歌仙』に選ばれた36人の万葉・平安歌人に対する総称です。有名な佐竹本『三十六歌仙絵巻』に見られるように、当初は絵巻などの形で作成されましたが、やがて室町時代に入り和歌の上達を願う中央の歌人などにより絵馬として奉納され始めました。須屋神社三十六歌仙絵馬は、江戸時代後期の寛政4年(1792年)に肥後細川藩の御用人であった竹原勘十郎により須屋神社に奉納されました。絵は、当時の細川藩の御抱え絵師であった矢野良勝と衛藤良行の両名によって半分ずつ描かれています。近年まで木箱に納められ本殿に置かれていたのが部分的に変色はありますが、全体的に保存状態が良く、現在も36枚すべてが現存していることから指定文化財となりました。

地元の人によると、戦前より神社の大祭で神楽を舞う際に毎年拝殿に掲げていたそうです。現在では西合志郷土資料館に寄託され、展示・保管されています。

また、『三十六歌仙絵馬の世界』という冊子が発行されており、御代志市民センターとヴィーブルで販売しています。



「三十六歌仙絵馬の世界」
(1冊 300円)
御代志市民センター・ヴィーブルで販売中



文化財保護委員
城 萬里子
(芝原)

文化財保護委員から

先日ある会の席上、「もしタイムマシーンに乗れるなら、どこに行きたいか」という話が出ました。皆さんは、どこにいつてみたいと思われませんか。わたしは、この合志市で時間軸を縦にどんどん移動して、この地に生きた何世代もの人々の息吹を実際に感じてみたいと思います。今ののどかな竹迫城跡公園でかつて現実に興亡を賭けて激しい戦いを繰り広げた人々。鎌倉の頃初めて竹迫観音祭りを始めた人々の信仰の形。弥生時代八反原の大地を耕して文化をばぐんだ人々。二子山で石器を制作していた人にもぜひ会ってみたいと夢は広がります。

犯罪のない 明るい社会を

7月1日、市役所合志庁舎で第57回社会を明るくする運動推進大会が行われました。

この運動は、すべての国民が犯罪や非行のない明るい社会を築こうとの趣旨で行なわれている全国的な運動です。

大会には関係団体から多数の参加があり、合志市実施委員会会長の太住市長から「明るい社会を築くためには、地域社会が連帯し、犯罪や非行について深い関心を持って取り組みましょう」と力強いあいさつがありました。

